追々長崎にて唐通事役人出來、且又元和六年南京寺、寛永五年漳州、州下疑脫寺字同六年福州寺、唐三ケ寺、皆長崎在津の唐船主共、資財を寄附して創建せり、

肥後國葦北津

〔日本書紀二十二推古〕十七年四月庚子、筑紫太宰奏上言、百濟僧道欣惠彌爲首一十人、俗人七十五人、泊于肥後國葦北津、

〔和漢名數地理〕日本三津

薩摩國坊津

坊津薩摩

〔南留別志四〕一薩摩の防の津は、防人の守りし所なるべし、

〔地理纂考十一薩摩〕川邊郡坊津村

坊津港　往古唐湊トイヘリ、方角集ニ、卽チ唐湊トアリ、○中略儲坊ノ津ノ名ハ、當鄉○坊泊一乘院、往古大寺ニテ、上ノ坊、中ノ坊、下ノ坊等ノ數坊アリシガ、遂ニ地名トハナリシナリ、

〔和漢三才圖會八十薩摩〕房津

在籠島之坤海濱也

〔登壇必究二十二東南夷〕日本國圖

薩摩州　坊津

〔麗藩名勝考一〕同郡○川邊坊泊鄉坊津村

唐湊卽坊津、方角集、今云坊津、武備志、登壇必究等、並作坊津、海東諸國記、作房津、和漢三才圖會同之、本朝三津之一也、筑前博多、伊勢洞津、薩摩坊津、

是より西北、卽同鄉の內泊村と云、登壇必究、作拖馬里、久志秋日鄉接比す、武備志、久志港、秋日港ニ作る、並に小き畧あり、大船は繫泊しがたし、昔は皆加世田鄉に屬せり、

府西南十五里